

第56回 『あいおの会』

-失語症友の会-

1、「失語症友の会」とは

失語症とは、脳卒中や事故などの後遺症によって、言葉を操る能力に障害が残った状態をいい、聞く・話す・読む・書くことすべてに影響を及ぼします。このような失語症の方に対して、言語聴覚士が中心となり、個別の訓練・支援をおこなっております。

失語症の多くの人は、日常の何気ない会話が不自由になり、仕事や趣味活動など、社会活動への参加が難しくなります。そこで、熱海・伊東地区では、失語症の方々のコミュニケーションの機会を作り、交流を深めるという目的で、平成18年7月より「失語症友の会」を開催しております。会には国際医療福祉大学熱海病院と熱海所記念病院の言語聴覚士や患者様のご家族も参加しております。

2、第56回「あいおの会」

平成29年6月4日(日)国際医療福祉大学熱海病院にて、第56回失語症友の会が開かれました。今回は、失語症患者様9名とご家族様、言語聴覚士など多数の方にお集まりいただき、賑やかな雰囲気でした。

今回は、都道府県クイズと団扇作りを行い、最後には、「富士の山」と「365歩のマーチ」を歌いました。クイズでは、グループ毎にヒントからどこの県か考えて頂きました。各県の名産品や観光地などから、想い出話も盛り上りましたね。クイズの後は、夏に向けてオリジナルの団扇を作っていただき、皆さん、素敵な団扇が完成しました。団扇と一緒に、暑い夏を乗り越えていきましょう！

次回は**平成29年8月20日(日)13時**から、国際医療福祉大学熱海病院で行います。

会場は地下1階会議室となります。

※猛暑の季節となりますので、今夏の天候に合わせて日程を変更させて頂くかもしれません。

変更がある場合には、別途ご連絡させて頂きます。



難しいヒントに、話し合いも真剣…！



オリジナルの団扇を皆様に披露しました！